

平成 24 年度・第 3 回鎌倉市交通計画検討委員会 議事録

日時 平成 25 年 2 月 28 日（木） 午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分

場所 鶴岡八幡宮 直会殿

議事

1. 確認事項

【事務局】 検討委員会を開会するに当たり、4 点ほど確認をお願いしたい。

1 点目は情報公開についてである。鎌倉市交通計画検討委員会条例施行規則第 4 条にて「会議は公開とする」としている。従って、今回配付した資料は全て情報公開の対象となる。

2 点目は傍聴についてである。今回の鎌倉市交通計画検討委員会の傍聴者を広報やホームページで募集をしたところ、5 名の申込みがあった。よって、傍聴も認めたいと考える。

3 点目は会議の議事録についてである。原則として公開となるため、議事録を作成次第委員の皆さんに確認頂いた上で、公開したいと考える。なお、発言者の氏名については非公開とさせて頂く意向である。

4 点目は第 2 回の鎌倉市交通計画検討委員会議事録についてである。皆さんに内容を確認して頂き、修正要望があった箇所については修正を加えた上で最終案としたものを会議資料と共に事前に送付させて頂いた。意見がなければ、この内容をもって確定したいと考えている。以上の 4 点が確認事項である。

【委員長】 事務局からの確認事項「資料は全て情報公開の対象」「傍聴者への公開」「議事録の公開」「第 2 回鎌倉市交通計画検討委員会議事録（案）の確定」について、了承することで良いか。

【委員一同】

異議なし。

2. 議題

(1) アンケート調査結果の報告

(事務局から資料の説明)

【●●委員】 パーク&ライド及び、市役所駐車場利用者のアンケートの結果は細かく調べているが、この中で、料金に関する意見や駐車場の増設に関しての意見はあったか。

【事務局】 駐車場利用者アンケートに関しては、料金や駐車場の増設要望の質問を設けていないので把握していない。パーク&ライド利用者アンケートは、改善策に関する自由記入欄があり、その中で、利用できる駐車場の増設要望はあった。

【●●委員】:

市役所の駐車場が休日開放していることは知らなかったが、今後、利用を促すようなことを

行うのか。市役所周辺の道路は狭く、今小路通り歩行者尊重専門委員会の中では、少しでも車を減少させ、歩行者の安全性を高めることを目標にしている。道路整備を行わないままに市役所の駐車場利用が増えると、安全性に影響を及ぼすのではないか。

【事務局】平成7年から鎌倉地域の地区交通計画を始めたが、当時、市役所駐車場は1時間100円程度であった。そのため非常に利用者が多く、特に市民の利用が多いということで、料金を上げた経緯がある。鎌倉地域に自動車を呼び込まない政策を進めている中で、逆に自動車を呼び込む結果になり兼ねないので、料金を上げるなど交通政策的に考えていきたい。

【委員】アンケート調査のサンプル数を1,000部に設定した根拠を教えてください。

【事務局】アンケート結果を平成7年当時と比較するため、鎌倉地域に600部、その以外の腰越、深沢、玉縄、大船地域に各100部の400部で、合計で1,000部とした。

【委員】それは分かるが、その1,000部を決めた論拠を教えてください。

【事務局】アンケートは、ただ多く行えば良いというものではない。費用を考えながら、平成7年当時と比較するため、同じ部数で行った。

【委員】了解した。

(2) 鎌倉地域地区交通計画の基本的な考え方

(3) 平成25年度社会実験素案の検討

【委員長】本日の重要な議題である地区交通計画の基本的な考え方及び平成25年度社会実験素案の検討について、事務局から一括して説明して頂きたいが、まずは専門部会でどのような議論があったのかを、副委員長（専門部会長）から経過説明して頂きたい。

【副委員長】昨年9月に実施した第2回交通計画検討委員会以降、3回の専門部会を開催し、意見を取りまとめたものが本日の資料である。資料1の10ページでは、前回の委員会で確認した考え方の視点として、「歩行者の安全性の確保」、「公共交通の移動のしやすさの向上」を示している。検討方針については、特定箇所を中心に、休日の特異日に絞って検討を進めることを示している。もう一つ重要な視点として世界遺産登録を視野に入れて進めることである。前回の検討委員会で合意を得たこれらの視点に関して、市民アンケート調査を実施し、その是非を確認した。

もう一つは11ページ以降にある、これまでの交通計画では入手できないような非常に詳細なデータ（(財)日本道路交通情報センター提供のVICSデータ）を分析して、具体的な実態が分かってきた。

その上で15ページの基本的な考え方の中に示したように、市民アンケート結果で分かった鎌倉の休日の交通問題は依然として、かなり深刻であるという認識の中、その対策の議論を行った。専門部会では、正月三箇日に行っている交通規制の拡大、朝比奈ICからの流入の抑制、公共交通への転換方策として、これまでの発想にない交通渋滞していない対向車線に循環バスを運行するなどの提案があった。

交通規制に関しては、周辺への影響等も考えられることから、事務局が関係自治体に打診をして、その実行可能性について検討を深めた。その結果、自動車の利用抑制については、何らかの方法で自動車利用を分散抑制することや、公共交通への転換方策を考えるという書き方にしている。

その一方で、直ちに取り組むべき施策を議論した。具体的には、「世界遺産手形の発売」、「新規路線バスの運行」、「総合交通観光情報の提供」、「市民への協力の呼びかけ」を先ず社会実験として行ったらどうかを提案している。

(事務局から資料の説明)

【委員長】 これから1時間ほど意見交換をしたいと思う。その前に、今日はどこまで議論をしなければいけないのか。全体のスケジュールと議論の目標があれば教えて頂きたい。

【事務局】 先程事務局から報告した平成25年度の社会実験については、国土交通省が募集する社会実験に応募し、国の費用を活用しながら社会実験を実施しようという考え方である。従って、今回は、専門部会で示した素案について意見を頂き、6月の申請までに、再度専門部会及び検討委員会に諮って、内容を高めていきたいと考えている。是非、社会実験の素案について意見を頂ければと思っている。

【委員長】 今回は比較的自由に意見を頂いて、次回の専門部会等で内容を高めて頂くということである。それを受けて6月の申請までに、もう一度検討委員会等を開催し、実験の合意を得ることになるが、社会実験の内容と、特異日の考え方との関連についてもう少し詳しく教えて頂きたい。特異日を目指して社会実験を行うということになるのだろうか。

【副委員長】 社会実験案は幾つかあり、世界遺産をターゲットにした実験の提案については、特異日の議論と並んでもう一つの重要な要素である。さらに、情報提供に関する実験は、特異日にも、それ以外の平常時にも活用できるので、比較的長い期間で考えることができる。一方、特異日に活用できそうなのは、従来とは逆回りの循環バスの実験である。これは、渋滞してどうしようもできないから、緊急救済策として循環バスを運行しようということである。つまり、社会実験の一部として、特異日に対応策を講じるということである。

【委員長】 世界遺産に関する実験については、世界遺産に登録されないといけないのか。

【事務局】 世界遺産については、本年の6月に正式に決定すると思う。決定すると世界遺産手形という施策を考えているが、世界遺産に登録されなくても、交通渋滞対策は非常に重要と考えている。構成遺産は国指定史跡なので、世界遺産に登録されなくても観光客は多いことから、手形を使って観光して頂き、なるべく公共交通の利用促進を展開する取組みを実施したらどうかと考えている。

【委員長】 それでは、今まで専門部会で検討頂いた内容について、意見・質問を頂きたい。

【●●委員】 資料1の24ページに、「来年の正月に向けて社会実験する」と書いてあり、是非

そのようにしたいのだが、一方、資料1の16ページには、専門部会の方向性として、「平成25年度には社会実験を実施しない」という内容が書いてある。これらの内容は食い違っているのではないか。

【事務局】これは、正月三箇日の交通規制のように、規制が絡むと関係機関との合意が必要になるため、平成25年度に社会実験を実施することは難しい、という専門部会での議論の結果を記載している。

【委員長】特異日に対して、これまで正月に行っている交通規制と同じことを行ったらどうか、という議論があり、それをすぐ実施するのは難しそうだ、というのが今回の説明である。

【●●委員】すると資料1の16ページの社会実験と、資料1の24ページの社会実験とは内容が違うという理解でよろしいか。

【委員長】資料1の16ページは、議論した経過が書いてある。

【●●委員】了解した。ただ、内容を知らない市民がこの内容を見ると混乱すると思う。

【●●委員】当委員会に参加されている●●委員と一緒に、私は世界遺産に関する活動も行っている。その会議では、仮に世界遺産に登録されなかったとしても、やはり鎌倉市は、世界遺産に相応しい交通政策をしているということで、「世界遺産」という言葉を使った取り組みがあっても良いのではないかと考えている。鎌倉を楽しみに来られる方に情報を正確に伝えることが大切なので、総合的な情報提供システムについて議論する必要があるのではないか。まず、「休日に何も準備しないで鎌倉に来たら、渋滞で全然動かなくなる日があり大変だ」ということを、新聞やマスコミで報道されることから始めれば、混んでも楽しめるような手段があると思う。例えば、博覧会場の待ち行列で、随分遠くの人と友達になれたのが良かったと言うように、混んでいることを楽しむような心理状態もある。そのようなことを全部捉えた上で、鎌倉は多様な情報をうまく提供することを目標に、取り組む必要があるのではないか。

【委員長】これは、資料1の22ページの総合交通観光情報に関わることである。今の話とも関連するが、「鎌倉市観光協会との連携」については、既に議論され、実施の目途は立っているのか。

【事務局】専門部会でも、ワンサイトでの交通情報を提供することが必要ではないかという意見があった。ただ、観光協会のホームページでの案内については、具体的に詰めてはいない。今後必要ということであれば、協議しながらワンサイトでの情報提供を行いたいと考えている。

【委員長】そのような意見が強くなれば、鎌倉市観光協会と積極的に連携していくということになるであろう。

【●●委員】この世界遺産手形という表現だが、この資料を頂いてからまだ一週間も経っていないので、仏教会に持ち帰っての議論は行っていない。もう少し資料を早く頂けると、この

会議に出る時に仏教会全体の意見として話をするができる。その上で世界遺産手形という表現なのだが、今までの仏教会の集まりの中では、この世界遺産という言葉を使うと、候補地になっているお寺が主導して考えれば良いだろうということになってしまう。しかし、交通に関しては、鎌倉にあるお寺全体で考えなければいけない。そのため、鎌倉のお寺全体が協力できるような名称を考えて頂きたいと思う。お寺の中でも考え方は様々であり、人がたくさん来て欲しい、あるいはお葬儀に行く時に車が混んでいて困る、お彼岸の時に車で鎌倉地域に入れなくなるのではないかと、色々な意見がある。

ここで、市民、商工業者、神社仏閣全体が鎌倉のことを考えられる、とてもユニークな発想があったので紹介させて頂きたい。世界遺産という言葉もとても魅力的だが、それ以上に「鎌倉」という響きは、鎌倉のお寺はとても大好きで、もしかしたら「世界遺産」よりも「鎌倉」という言葉の方がとても響きが良いという方もいる。鎌倉が一つの精神性を表す中で、「道」という言葉があり、恐らく「道」は、鎌倉の中では、武家の中で考えられることではないかという意見が出た。「みち」。「どう」。侍道。茶道。武士道。野球道。料理道。この「道」は、自分自身の気持ちというよりは、何かそこにそれ以上の価値を見つけて、そこに自分を落とし込むような精神である。「道」という言葉は、交通にも関係があると思う。実際に実験には使えないかもしれないが、自分自身の考えだけでなく、より大きなものに対して価値を導くことや、皆さんの気持ちをそこに誘導していくような精神で、だから歩きましょう、だから車をここに止めて、後は自分だけ自家用車を使うのではなく、皆で何かしましょう、と言うような精神性を落とし込むことはできないかという意見が出た。その「道」というのは、鎌倉の中で、お寺だけが考えているものではなく、より多くの人々に共感を得られるような精神性でないだろうか。

【委員長】最初の資料発送の件だが、どのくらい前に届ければ良いか。

【●●委員】もし、仏教会全体でこの資料を元に意見を下さいということであれば、やはり一ヶ月は欲しい。それは勿論大変だと思うので、次回の委員会が開催される前までには、一度仏教会全体で集まって話をして、意見を持ち込むことは可能である。

【委員長】了解した。一月前は厳しいかもしれないが、事前に関係する部分をなるべく早くお届けできるようにする。

【●●委員】よろしくお願ひしたい。

【委員長】その「道」というキーワードを、どう伝えれば良いか。もう少し具体的なアイデアがあれば教えて頂きたい。

【●●委員】お寺だけで考えるのではなく、より多くの方々の気持ちや、市民、あるいは観光客の中で、「道」というのは鎌倉独特で、武家とも強く結びつく考え方だと思うので、それを市民も観光客も、大きく取り上げられる一つの言葉だと思う。ただし、これ以上の具体的な内容について考えることまではしていない。

【●●委員】「鎌倉道」と言うのが良いのではないかと感じた。

【●●委員】社会実験実施期間について、資料1の11ページの特異日では、1月の連休が一番混雑するという結果になっているが、これはこの年に限ってということか。

私は、1月の連休が一番混雑するということを意外に思っている。この年は多分、成人の日と関連して連休があったと思う。そして、1月3日まで入れなかった車が来訪したという要因もあったと思う。カレンダーは毎年曜日が変わり、私どものように宿泊業をやっていると、その年によってお客様の流れが多少変わってくるので、来年や再来年に社会実験を実施した場合、果たしてその効果があるのだろうか。例えば平成26年の場合、1月12日と13日が連休になっていて、その前の5日に日曜日がある。実施時期については良く検討して頂ければと思う。

【委員長】了解した。来年度の実施時期については、カレンダーを良く見ながら日程を考えていきたい。

【●●委員】情報提供の社会実験に関しては賛成だが、今は情報が溢れ過ぎている時代であると思う。パソコンにしる、スマートフォンにしる、魅力と価値のある情報を出さないと、その他多くの情報源と同じ扱いをされてしまう。今、観光協会のホームページとのリンクの話があった。世界遺産手形のPRや、料金体系の提供等は当然必要だと思うが、社会実験の前に何がユーザーにとって価値がある情報なのかをきちんと把握し、利用者が「これは便利だ」と思える、目玉になる情報を作らないといけないと思う。

朝比奈方面からの流入制限は、逗子市が了承しないので計画しないというのでは納得いかない。もし、一つの広域行政市であれば、当然行うと思う。実体験として、市内から横浜横須賀道路に乗る時に、朝比奈ICまで何分、逗子ICまで何分という情報があれば、料金は多少高くても時間が早い方のルートを利用すると思う。逆に、横浜横須賀道路を使って入って来た時に、朝比奈ICから市内中心部まで何分、逗子ICから降りたら何分という情報があれば、それは非常に有益な情報だと思う。ドライバーにとって確実にメリットとなる、他にはない情報を出す工夫をしないと、情報提供の社会実験も、その他大勢の情報と重複したものになると思うので、是非検討して欲しい。

【委員長】ドライバーにとって有益な混雑情報は、カーナビを持っていると大体何分掛かるか分かるが、駐車場の情報も欲しい。鎌倉へ行っても駐車場に入れないということが分かればまた違うだろう。

【●●委員】道路管理者によって情報の連携が取れているのか。特に、高速道路上の交通規制の情報板と、一般道とがうまく連携していない。一般道ではここが混んでいるという情報が高速道路では出せないということが、資料1の16ページに記載してある。国土交通省や神奈川県警の方も来ているので伺いたいが、このような連携は難しいのか。横浜横須賀道路で、鎌倉市内の八幡宮前が何キロ渋滞しているという情報が出せないのか。国道134号での交通情報も、高速道路ではここが渋滞して入りにくいなど、お互いにもっと融通が利くと運転者に有益だと思う。どちらかと言うと行政の縦割りの弊害という気がするので、その辺りは難

しいのか、それぞれの関係者に伺いたい。

【委員長】 高速道路の委員はいないが、国土交通省や神奈川県警の委員で現状についてコメントを頂きたい。他の道路管理者の混雑状況の情報は他のところでは出せないのか、そもそもそういった情報のやり取りはあるのか。

【●●委員代理】 道路の渋滞情報は、交通管制センターで一括して県内の渋滞状況を管理している。その状況により、逐一情報板で情報を流している状況である。

【委員長】 情報の連携はもう行っているということか。

【●●委員代理】 その通りである。ただ、鎌倉市内のピンポイントの交通渋滞情報を得るシステムがない所については把握しきれないので難しいが、情報を取れる所については今でも情報を提供している状況である。

【●●委員】 これまでの専門部会で、朝比奈の流入規制等については、段階的に実施できないかと言うことで、色々意見を述べてきた。

また、資料1の9ページに、車を利用する理由についての設問があるが、鎌倉市内への車利用が多いために道路が混雑するので、この理由がとても重要であると思う。以前にも、同様の設問でアンケートをしていると思うが、前回調査時の理由と今回の理由に差があれば教えて頂きたい。それから、回答された対象者は同じなのかどうかも教えて頂きたい。

【事務局】 本日は前回調査のデータがないので、次回の検討委員会で回答させて頂きたい。

【委員長】 では、今回の調査の対象者についてだけでも教えて頂きたい。

【事務局】 市役所駐車場を利用されている方々に実施した。

【委員長】 目的が観光の方を対象としているのか。

【事務局】 観光だけでなく、497名の全回答者を集計している。

【●●委員】 もう少し他の駐車場のサンプルを集めてはどうか。車で来る理由というのは非常に重要だと思う。特に多い理由として挙がっている、「自宅から鎌倉地域まで電車やバスを使うよりも速いため」、「他の交通手段でも利用できるが同乗者を含めると車の方が割安になるため」、は非常に問題である。問題点が絞られてくれば対処の仕方も考えられると思う。サンプルをもっと集めて、何故車で来るのかを追求して対応方法を考えていくのが良いと思う。世界遺産手形などに関連し、電車で来た場合には割安にするなどのお得感を出し、車で来た場合は少しデメリットがあるようにして、車で来ること自体を控えるようにすれば良いと思う。そのためにも、車で来る理由をはっきりと掴みたいと思っている。

【委員長】 今回の集計は観光目的とそれ以外を一緒に集計しているので、半数は観光目的以外の近くに住んでいる方が買い物のついでに止めており、その内の約9割はリピーターである。観光目的のみで集計してみるか、他のアンケート結果の有無についても含めて考えて頂きた

い。

【●●委員】先程、警察の方から既に交通情報を提供しているという話があった。資料1の16ページに「NEXCO 東日本（東日本高速道路株式会社）は高速道路上の情報は流すが、一般道の情報については流さない」とある。費用の問題等もあると思うが、国土交通省の管轄だから提供できないということはあるのだろうか。また、お互いにもう少し融通は利かないのか。

【●●委員代理】結論からいうと、管轄が違うので警察としては判断できない。

【委員長】再度確認して欲しい。多分、情報量が増えすぎて厳しいと言われそうだ。

【●●委員】朝比奈 IC から出た所の一般道にラインを引き、そこまで渋滞したら明かりが点くようなものがあれば分かりやすい。

【委員長】どのルートが早いというような、カーナビによる誘導もできると思う。また、出発の前にそのような情報があると、車で行くかどうかという判断にも使えるので良いと思う。今後も、情報提供の方法については確認したいと思う。

【事務局】NEXCO 東日本の交通情報の表示については、管轄している東日本高速道路株式会社の関東支社の京浜工事事務所に、鎌倉の特異日は混んでいるから、他に迂回するという情報提供は可能なのかと問い合わせを行った。その結果、特異日は高速道路も混んでおり、交通事故や渋滞・天候情報等も表示させるので、一般道のある市町村に迂回するような情報は、全国的にも提供していないとの回答を頂いている。

【委員長】表示方法について、法律上のルールはないのか。

【事務局】法律上については把握していないので、後で確認したい。

【委員長】他に何か意見はあるか。

【●●委員代理】今の問題とは別だが、資料1の16ページに記載されている、正月並みの交通規制について、合意形成の対象者に交通管理者と記載してある。実際に交通規制を実施する場合には、まずは地域住民、商工業者、道路利用者の合意形成を取って頂ければ、警察としてはダメだと言う訳ではない。これは少し誤解を招きかねない。専門部会での方向性について、「交通管理者等との合意形成や費用の面を踏まえ、平成25年度の社会実験は実施しない」という記載があるが、一般の人が見ると「警察がダメだから実施できない」と思われる。

【委員長】警察は良いということか。

【●●委員代理】良いと言うのはまた別だが、まずは地域住民等との合意形成を図った上で、交通の円滑に支障がなく、事故発生の恐れがないのであれば、相談に乗れるということである。できれば専門部会での方向性の記載内容について、「地域住民・道路利用者等との合意形成」という内容に変更して頂けると大変ありがたい。昨年6月の鎌倉市議会でも、この正月の三箇日の交通規制について、議員から質問があったようで、当時もそのように答えている。警察は始めから門前払いという立場ではないということを理解して頂きたいと思う。

【委員長】交通管理者だけが全面に出ないように、少し文言を修正したいと思う。

【●●委員】社会実験を行うということは、国からお金を頂くことなので時間が掛かるのは仕方ないと思う。それで社会実験をこの場所で、絶対に実施しようと言う意見が 100 パーセントあり、実施するとしたら特異日のどの日にやった方が良いのか、それからどう言う項目で実施するかということを決めてはどうだろうか。

【委員長】今日の提案の仕方を見ると、資料 1 の 24 ページに期間の提案があるが、専門部会では世界遺産手形と、逆方向の循環バス、そして総合的な交通情報の提供を、10 月から翌年 1 月半ばまでの 1 ヶ月くらいでやっていただけらどうか、ということが提案されている。今までのところは異論がないので、概ね「やってみたらどうか」という感じだと私は思っているが、期間についてはまだはっきりと決まっていないので、意見があれば伺いたい。先程、1 月は特殊な日があるから、カレンダーを見てやるべきだという指摘もあった。皆さんから意見があれば頂かし、なければ次回の専門部会で、今日の意見を含めて決めていくということにしたいと思う。

【●●委員】了解した。

【●●委員】特異日についてだが、先々週に 3 連休があった。あの時点でも朝比奈から鎌倉の方へ向かう十二所辺りが午後 2 時頃まで混んでいた。午後 2 時を過ぎれば今度は逆方向が混むことになるので、必ずしも 1 月だけとは限らないのではないか。

【●●委員】皆さんの今までの話に水を差すようで申し訳ないが、アンケートでデータ収集することが目的になってしまって、その先どうするのが全然見えてこない。私は前回も、前々回も申し上げたが、鎌倉市内には渋滞発生の原因になるような信号が沢山ある。資料 1 の 14 ページに混雑状況の地図があるが、いつ見ても国道 134 号が真っ赤である。他のところは赤くなったり白くなったりしているが、この国道 134 号が坂ノ下や稲村ヶ崎辺りから七里ヶ浜、鎌倉高校駅前までずっと繋がる。これは何故かと言うと、鎌倉高校駅前での右折車が止まってしまうからである。ここに右折矢印のついた信号をつけて、1 分くらい点けておけばかなり改善するのではないかと思う。八幡宮前の信号や、他にも色々ある。車に乗っている時に常々思っているのだが、この委員会とは別に、交通管理者である警察と、市役所の交通計画課、それと地元の自治町内会、信号に詳しい人たちと議論する場を設けて、「交通シグナル改善委員会」というような会を作っていくのが先決ではないのかと思う。余計なことかもしれないが提案させて頂きたい。

【委員長】実際に、警察と市との協議の場はあったのか。

【●●委員】市に聞いても「それは警察の仕事だ」と言われてしまう。

【委員長】交通管理者だけが悪いとは言わないが、何かコメントを頂けるか。

【●●委員】付け加えてよいだろうか。八幡宮前の交差点には、北鎌倉方面と浄明寺方面に行く車でとても混雑するので、矢印式信号がついている。あれはすごく便利で良く出来ている

と思う。

【●●委員代理】渋滞発生の原因となっている交差点は、鎌倉市に限らずあるが、特に八幡宮前や鎌倉高校駅前については、警察でも十分承知しているところである。ただ、現在の信号制御については、現在最適な状態である。信号は、1交差点だけを見て良くするものではなく、ある程度面（地域）で見て制御しないと、その交差点の信号だけ流れを良くしても、他のところで渋滞を起こす。ただ、交通量が多く、飽和状態になっている信号もある。●●委員から指摘があったように、鎌倉高校駅前の交差点は確かに右折の矢印等があれば良い。これは確かな情報ではないのだが、鎌倉高校駅前の交差点については、道路改良の予定があるような話も聞いている。右折レーンが確保されればもちろん交通が流れるが、一方で、江ノ電の踏切の問題がある。その辺りも現在、交通規制課では検討の課題として上っているところなので、今日、明日と言う訳ではないが、今後渋滞解消に向けて努力していく考えである。

【●●委員】改良工事についての話が出たが、前回の委員会でも質問があり、回答している。鎌倉高校駅前は長年要望を頂いており、計画に基づく説明会を度々行って、今度改良工事を実施するということである。厳しい財政状況の中、神奈川県では緊急経済対策として集中投資をし、工事費が大きいので工事期間が長くなるが、右折レーンを確保して交通の渋滞を少しでも緩和しようという政策を始めたいと思っている。

【事務局】先程の●●委員から指摘のあった社会実験についてだが、鎌倉市で平成7年から取り組みを始めており、平成8年、平成10年、平成11年に社会実験を実施してきた。この社会実験というのはすぐ実施をするのではなく、効果や課題を確認するというのが非常に大事だと考えている。その上で、それが良いとなれば、本格実施をするということで、20の施策の内、社会実験をやって本格実施に至っている施策もある。今後もすぐ実施をするのではなく、社会実験を通して、効果や課題を確認しながら本格実施を目指していこうと思っている。従って、今回の社会実験については、事務局としては無駄とは思っていないので、その点は理解して頂きたい。

【委員長】他の委員は何か意見があるか。

【●●委員】社会実験の素案という中で、私どもが関与するのが「A. 世界遺産手形の発売」と「B. 新規路線バスの運行」である。Aについては私どものみならず、江ノ島電鉄を含めた交通事業者全体として行っていく話であり、別途、相談させて頂いていると認識している。先程から、社会実験の実施時期という話もあったが、社会実験の中で、ある程度期間を取ってやっていかないと実験ができないものと、ピンポイントでもできるものがあると思う。そう言った意味では、世界遺産手形や、総合交通観光情報の提供は、ピンポイントに行くことではなくて、ある程度の期間を継続して行うことで効果や流れが見えてくるだろうと思う。一方、新規の路線バスについては、迂回コースを通るバスなので、特異日かそれに相応する日でないか効果があるのか、ないのかを測れない。これについては、1、2年間実施するだけではなくて、仮に本格実施をするにしても、色々な問題点が出てくるだろう。1回やってみて、問題点を洗い出して、改善すべきは改善して、もう1回やってみる。ある程度効果や、

コスト的な問題が解決できるようになって初めて本格実施ができると思っているので、Bについてはある程度期間を絞って、1日とか2日といったところでやっていかなければならないと思う。今回、資料に挙がっているエリアについては、基本的には当社の路線バスがほとんどの区間で走っているの、社内的にもこの案については検討している。その中で、何よりも安全ということが担保されれば協力はできると考えている。資料1の21ページには既存路線バスとの運賃体系の整合性を取ることも必要だと書いてあるが、これは社会実験の場合では二の次、三の次で良いだろう。何よりも重要なのは、「ここを走って良いのか」という部分がどう担保されるかである。私どもとして、このルートの中で一番不安を感じている部分は、ハイランドを抜けて、久木ハイランド入口のところから名越のトンネルに入る手前で踏切を渡って、信号機のない交差点を右折する部分である。かなり狭隘でクランク状の交差点なので、こちらをバスが通れるかどうかといったところが課題になってくると思う。社会実験ということなので、若干無理を聞いて頂くにしても、警備員を配置し、如何に安全の確保ができるのかが大事になってくると思う。案としてこれで行きたいということであれば、私どもとしては道路を管轄している逗子市や、所轄の警察、県警を含めて安全性の確認をして頂く必要がある。それでオーケーだということになると、やはり路線バスの営業と言うことになるので、国土交通省の方に「新しく道路を走らせる」といったかたちでの許可を頂いて実施ということになるかと思う。そういった社会実験を、資料1の24ページの流れに乗せると、Bの社会実験に関しては年明けの特異日というところに恐らくならざるを得ないだろうというのが、事業者側の認識である。

【委員長】 この3つのテーマは必ずしもタイミングが同じかどうかは分からない。確かにバスの準備をしないといけないと思うので、これも是非専門部会で議論して頂きたい。同じ期間内でやらないといけないのか分からないが、テーマによっては、本当の特異日にやるべきものと、特異日といっても土日を対象にした施策というものも認めて頂けると思う。

【●●委員】 新しいバスルートに関しては、あくまでも感覚的なもので提案をさせて頂いた。実際にデータが取れている訳ではないので、京浜急行バスに社会実験をお願いする前段階では、例えば乗用車でも市役所の軽自動車でも良いので、特異日の混んでいる時間に駅から出て一台は明石橋で通常バスルートに戻ってくるのと、もう一台はハイランドを抜けて大町方面から戻ってくるルートのデータは取っておかないと、結局通常ルートの方が早かったという話になると、住民の方たちにとってはメリットがない。来年度中の前半の特異日を選んで、データ収集を行うことは簡単にできることであり、必要であると感じた。

【委員長】 もちろん事前調査は一度やってみるべきだと思う。その他、ホームページ関係のものは、やる気になれば肅々とやれそうだが、世界遺産手形等は少し準備が必要だと思う。

【●●委員】 先程の●●委員の発言を伺って、重要なのは、社会実験は来年度で終了と言う訳ではないということだと思う。資料1の24ページには来年度のスケジュールが掲載してあるが、恐らく再来年度やそれ以降についても、必要な施策の検討や社会実験は続くだろうと考えている。その中で、こういった施策の対策を考えていくのかというのを、費用対効果も含めて優先順位を考えてみると、やはり特異日の中でもさらに特異な日だと思っている。特異

日が年間 365 日の内の 20 日を切るくらいなのだが、その特異日の中のさらに特異日ということであれば、年間で 2 日くらいだと認識している。資料 1 の 13 ページのグラフを見ると、正月明けの連休と 9 月末の連休ということになると思うので、これは来年度のカレンダーを見ながら、日程は設定して頂ければと思う。その中で、社会実験の期間ということを見ると、私も専門部会で情報の総合提供をやってはどうかと提案させて頂いたが、やはり半年から一年ぐらいモニタリングをして、しっかりと効果検証するべきだと考えている。従って、優先順位としては、来年度というよりも再来年度以降に社会実験をするのが望ましいのではないかと個人的には考えている。では来年度はどうするのかということになるが、先程●●委員からも提案があったような、新規バスの社会実験や、比較的到低コストで実施可能な世界遺産手形をやって、まずは効果検証していく。単年度限りということではなくて、2、3 年ぐらいの期間で社会実験の優先順位を検証していった方が良いのではないかと考えている。

【委員長】社会実験の予算的な話として、毎年機会があるということによろしいか。

【事務局】具体的に言うと、国土交通省の道路局の社会実験制度は、平成 11 年から制度化されている。これは先程申し上げた平成 8 年に実施した鎌倉での社会実験を参考にして作った制度である。今後もこの制度は続くと思われ、その他の省庁でも社会実験、実証実験制度などがあるので、そのような制度を活用したいと考えている。鎌倉市は財政難ということもあるので、なるべく国の費用を活用しながら社会実験を進めていきたい。

【委員長】それでは専門部会で議論して頂いて、予算を要求する時期までに市の内部での説明も含めてやっていかなければ決まらないと思う。今日は委員からそれほど強い反対意見はなかったように私は認識しているので、この専門部会の意見をさらにブラッシュアップして、具体的にどこでいつやるのか、それに掛かる費用はいくらなのかなど、かなり具体的に詰めて頂くことになると思う。そろそろ時間が迫っているが、何かその他、要望等があれば何うが如何だろうか。

【●●委員】先程から●●委員の鎌倉道交通作法みたいなのがうまくできれば良いなと思っ
ている。非常に差し出た話なのだが、●●委員に、専門部会にも出て頂けないのか。●●委員とその辺りをうまく考えていくと、非常に現代的な感覚となって良いのではないか。

【●●委員】この場だけで十分である。

【●●委員】先程話が出た明石橋からハイランド経由で名越の方へ出る道路の件について、石渡市長の時に提案させて頂いたのだが、ちょうどハイランドから降りたところの信号で詰まってしまって、頂上から久木に入るところくらいまで車が繋がってしまうこともある。この道路を、JR の線路の下をくぐって、反対側の山から道路へ出られるような方法は考えられないのかということでお話したが、逗子との関わりもあるし、JR との関わりもあるから、鎌倉では考えられないからということ、それ限りになってしまっていた。先般、事務局の方にはこの方法を提案させて頂いたが、現時点だけではなく、将来に渡っての発想というのも考えていく必要があるのではないかと思うので、提起させて頂く。

【委員長】実際にバスを運行させていくプロセスの中で、そういった将来的なことも少し頭に置いて検討頂けると良いと思う。

【●●委員代理】社会実験の話が出たので、一つだけ意見を述べさせて頂きたい。国土交通省の道路局で社会実験の制度を設けているのだが、実際のところ予算が非常に限られており、極めて狭き門の状態である。道路を活用してどういう社会実験ができるかというところをよく見ているようだ。過去に社会実験の中で通ったものとして、東日本大震災の関係で津波がだいぶトピックになっているが、道路の電柱などに海拔表示をして、どういう避難体制を確保するかといったような社会実験があった。そういった目玉になるトピックをうまく打ち出さないと中々通らないので、そこら辺りは鎌倉市が練り上げると思うが、事務所として、できるだけ協力させて頂きたいと思う。

それから、NEXCO 東日本の情報板の話だが、道路管理者としては道路利用者を安全に適切な情報を提供するというが一番の目的である。道路を利用される方全てが鎌倉に行かれるわけではなく、横須賀に行かれる方にも情報を適切に提供しなければならないので、中々難しいという回答をされたのかと思う。

【委員長】知恵出しについては是非よろしく指導頂ければと思う。大体皆さんからの意見は出尽くしただろうか。専門部会の方で検討頂いた内容について、これはまずいのではないかと言うような意見はなかったように感じた。もちろん、まだ詰めるべきことが多々残っているということはよく分かった。私も一つ、二つ意見を述べさせて頂いて、最後にしたいと思う。アンケートを拝見すると、パーク&ライドで5、6時間止めて買い物をされている方が市役所の観光目的だと3時間弱ということで、いずれにしても結構長い時間利用されている。先程ドライバーの情報として混雑を提供しなければならないということがあったが、同時に「どこに止められるのか」、「いくら掛かるのか」というのも非常に大事な情報なので、駐車場についても、さらに議論を重ねていく必要があるのではという気がした。そうは言いつつも、鎌倉にとって世界遺産は非常に重要な出来事である。最初の手形の話は非常に良いことだと私は思ったので、是非専門部会の方で更に詰めて頂きたい。

ホームページも割とやる気になればできるだろうし、多分、多くの方は観光に来る前に必ず一度ホームページを見ていると思う。どこに行こうとか、どこが混雑しているとか、駐車場はあるとか、皆見ているので、そういう情報をうまく提供できれば混雑を意識した行動が始まるかも知れない。

ここで、専門部会のまとめをやって頂きたい。副委員長に、今日の意見を踏まえた感想などを述べて頂きたい。

【副委員長】今、委員長にまとめて頂いた通りである。基本的に、専門部会が積み上げてきた問題意識の中で、取り敢えず来年度直ちに取り組んでいくことを整理した上で、来年度の社会実験を提案させて頂いている訳だが、それについては皆さんに賛同頂けたと考えている。まだまだ詰めないといけないことは多くあるので、引き続き詰めていき、しかも国の方から見て魅力が十分伝わるような内容にしていきたいと思っている。今後ともよろしく願います。

【委員長】具体的な議論に至るまでには、色々な方の合意をさらに取り付ける必要があり、ステップとしてもまだまだ乗り越えなくてはいけないことがあるので、専門部会の委員の皆さんには引き続き協力をお願いしたいと思う。最後に事務局の方から連絡事項はあるか。

3. その他

【事務局】次回の検討委員会の日程であるが、5月の下旬から6月初旬の開催を予定している。決定次第、委員の皆さんには通知させて頂きたいと思うので、よろしく願います。また本日は、平成24年度最後の検討委員会であるので、事務局を代表して、まちづくり景観部長の土屋から一言、挨拶申し上げます。

【まちづくり景観部長】本日はお寒い中、長時間に渡って議論頂いて誠にありがたく、お礼申し上げます。本来、市長がここに来て挨拶をさせて頂くところであるが、本日は議会中ということで、事務局を代表して私が挨拶をさせて頂く。

先程も話が出たが、今年の6月には世界遺産に登録されるということは、私どもとしては確信しているところである。登録された際には更なる交通渋滞の発生が懸念されているということであるため、引き続き、交通渋滞解消に向けた議論をお願いできればと思っている。そして、提案を頂いた施策については、事務局を始め鎌倉市として真摯に受け止め、施策の実現に向けて努力をしていきたいと思っている。最後になるが、委員の皆さんにおかれては、今後も鎌倉市の交通計画検討委員会に協力頂きたいと思う。

【委員長】それでは、これをもって本日は閉会とさせて頂く。

以上